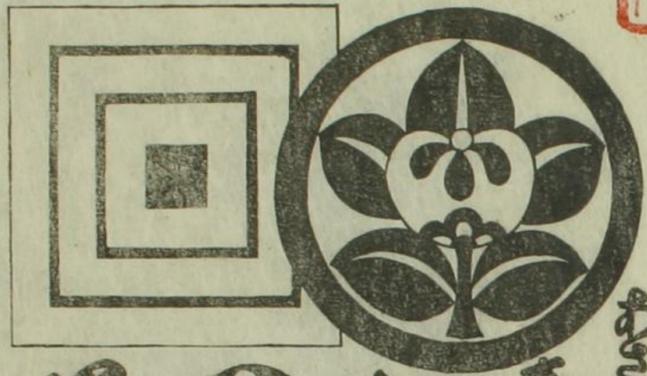


尚古造紙標 下

特別  
42  
2533  
2



門 42  
 號 2533  
 卷 2



薩摩守 中(馬)目

おん(馬)目

大英(馬)目

おん(馬)目

止

馬(馬)目

市村(馬)目



薩摩守 市村(馬)目

おん(馬)目

泉屋文庫

田舎(馬)目

昭和三十一年九月二十七日









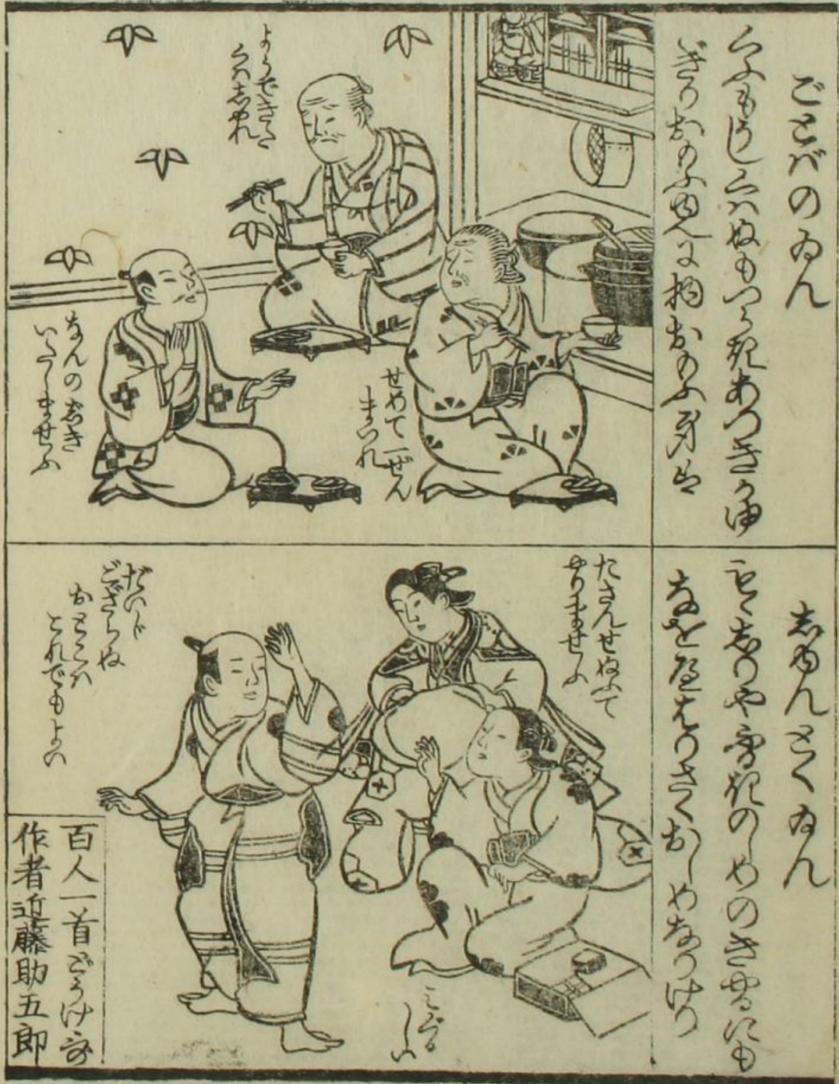
享保十三年  
 今文政十三年  
 九百三年の  
 むりし

享保十三年出板役者藝評の写



元祿十四年つわりの  
 五月五日初日の  
 兵根元曾我  
 中村 せんた  
 外旭  
 上るり  
 せんとき  
 中村 せんた  
 元祿十一年  
 寅九月九日  
 源平雷傳記

諸藝 金又揮  
 評判  
 役者洋判...  
 古今の名人...  
 八歳を法...  
 元祿十七年...  
 勸親父團十...  
 中村せんた...  
 二重員中...  
 大後徳の父...  
 大の如せ...  
 勢三...  
 兵根元曾我...



いさぎのぬん  
 くもじふぬのつらぬあつさうゆ  
 ぎのちのふゆ又相かのみすち

あめんさくぬん  
 ちちのやぶれののちのさかか  
 ちをるをのさくかちあつち

百人一首さうけ  
 作者近藤助五郎





萩原殿御凍筆  
 右黒塗の管の上は金粉を以て  
 浪花新町妓家扇屋某可藏  
 模之

萩原殿御凍筆

萩原殿御凍筆

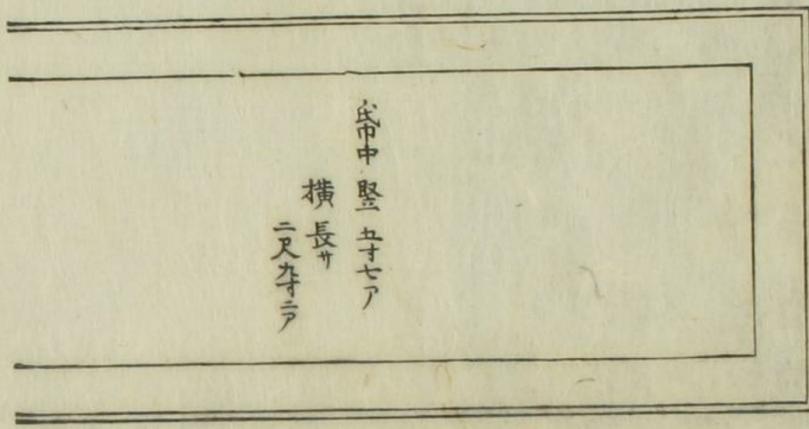
右黒塗の管の上は金粉を以て

浪花新町妓家扇屋某可藏

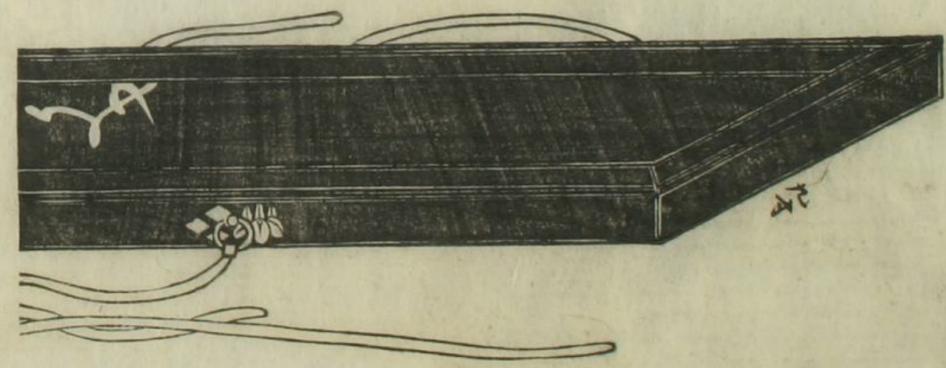
模之

夕霧文章額之圖并外箱

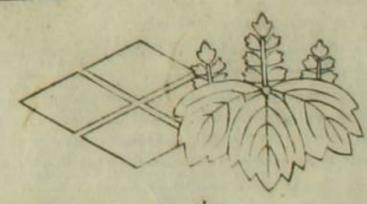
桐ノ木地アリ



成巾中 堅 寸七ア  
横 長サ  
二尺寸ヲ



鑲座金物之圖



真鍮

右ハ夕霧ノ定紋也

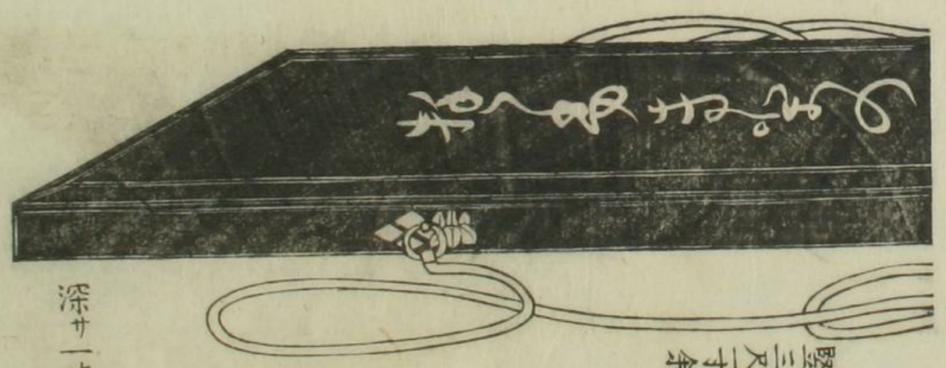
氏



圖のどく額ニ造りて藏ス



へり花色地織モノ



堅三尺寸余

深サ一寸

紐 茶色  
打廻

Handwritten musical notation on the left page, consisting of several vertical staves with various notes and clefs.

Handwritten musical notation on the right page, consisting of several vertical staves with various notes and clefs.

英

此辰三郎と  
いふハ  
タキリガ  
つひ  
夫の正人

Handwritten musical notation on the left page, consisting of several vertical staves with notes and clefs.

Handwritten musical notation on the right page, continuing the piece with several vertical staves.

卍

Handwritten calligraphy in a rectangular frame on the left page. The characters are arranged in two columns. The right column contains a vertical line with a small mark above it, and a wavy line below. The left column contains a vertical line with a small mark above it, and a wavy line below. A small character is visible at the bottom left of the frame.

Handwritten calligraphy in a rectangular frame on the right page. The characters are arranged in two columns. The right column contains a vertical line with a small mark above it, and a wavy line below. The left column contains a vertical line with a small mark above it, and a wavy line below. A small square seal is visible at the bottom left of the frame.

同襦袢模様之圖

地ハ縹瑤也

地色

薄玉子

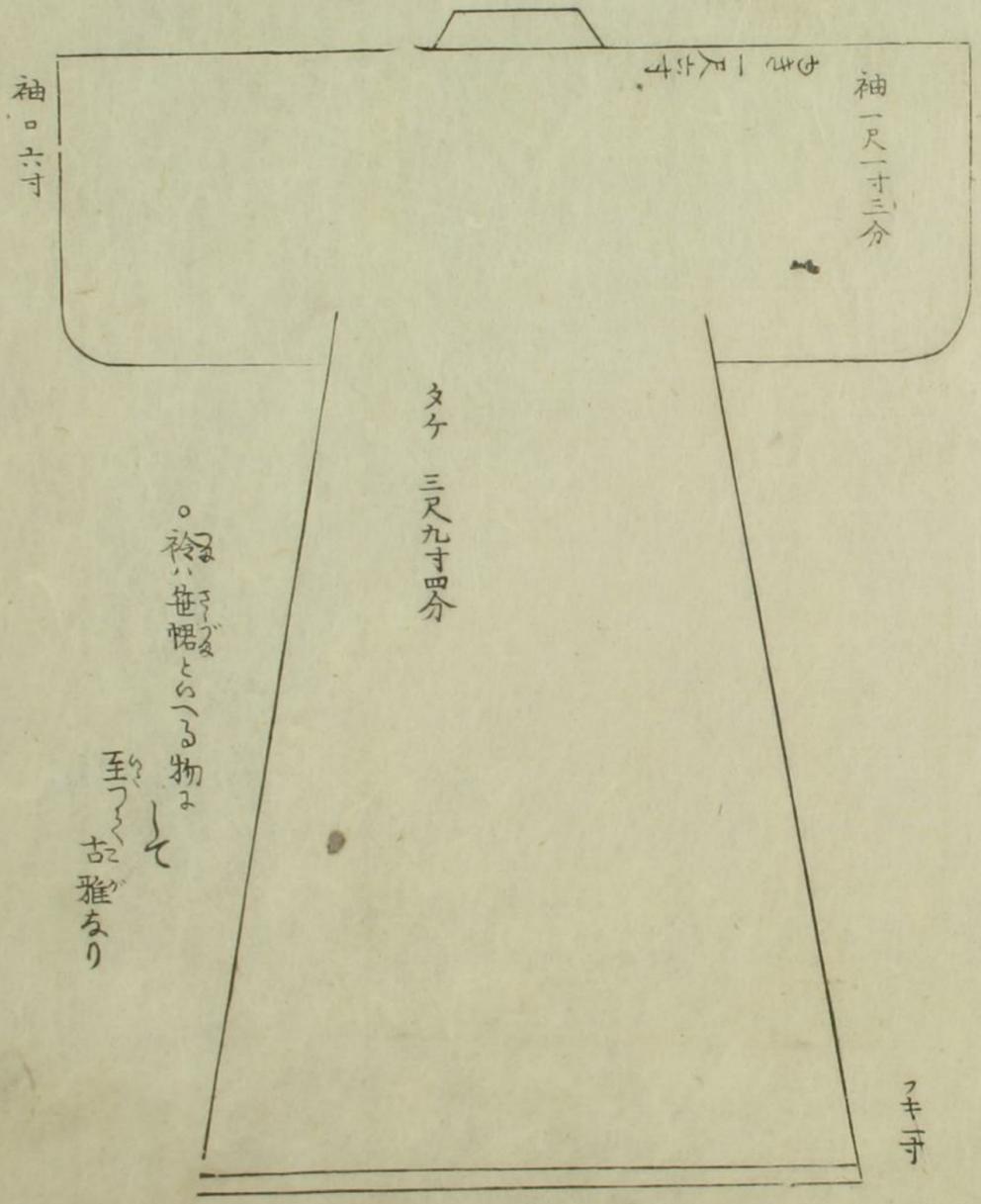
稻妻形白

浮文之真白交り

裏ハ藤色の  
縹子の通り



同寸法



○ク雨務といへるへ原京師嶋原の傾城なりしが寛文十二年占屋某。  
 京都島原より大阪新町の廓より越せし時連く下りしと云く。  
 寛文延宝年間の花魁より其全盛なりしと世人よく知取

延宝六年午正月六日身没

法名 花岳芳春信女

西寺所淨国寺に墳墓有り今尚扇屋某より年忌の吊るひ忌に  
 執行せしむ俳諧の集の中よ

児の親年笠いとたぬ時雨うな 夕ぎり

又伊舟の思母貫が夕ぎりの塚よりつての句よ

此塚の柳をくも何られなわ

今文政十三年まが百五十二年におよぶ

延寶三年出版の  
 年代記の写

寛文二年壬寅五月朔日

京師大地震あり

五條の橋をち一條を

年代記の諸書に著

せり此圖則ち其時の

さぬを画きしもの

今ハ既百六十九年の昔に

延宝三年より文政十二年

まが百五十六年及り

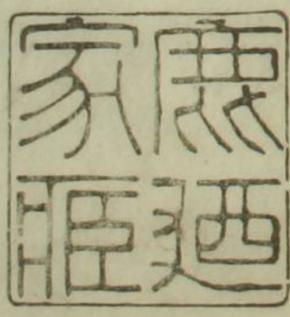




尚古造紙拵 後篇二冊 近刻

文政十三年庚寅八月發行

雞鳴舎藏

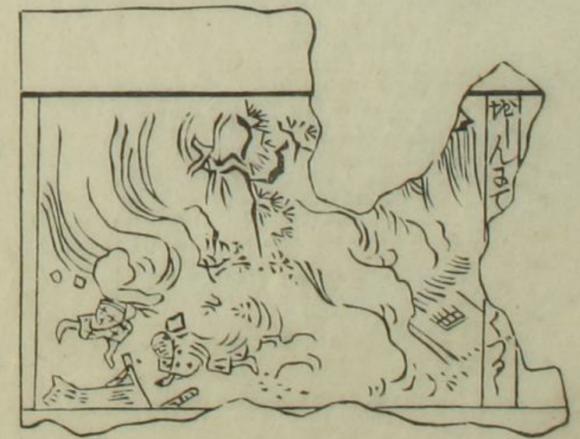


▲庚子年のついでに物大坂よりつちかつた  
 ちりやううらなまのまもろをくさんまふんや  
 せんどとうすきんまのひまをちひやる  
 ▲辛世正月十三日だつとあんにやうひかち  
 海へ船けりてさのけりやうまのまふん  
 年かまてたのまふん  
 ▲王子みりく大地んあかちううういふ  
 まてりつては回つた地んぬす

此の代記は世多依有誤  
 之今亦改令板し者也  
 延寶二年卯五月十日  
 二五通下子所記也

かんのて記奥書はう

元禄五年出版年代記の画



○是れ先まひてきんを記せ  
 町の画なれ因にうのんこふ  
 町

木田

